

文芸コーナー

短歌

俳句

加藤恵美子選

田口 三石選

今年また巡る母の日贈りたき母の在さぬ年月思う
二歩三歩あゆみて孫は得意気に自分に拍手しました立ち上がる
夕焼けの染まる植田にひろびろと声のひびきて蛙らの鳴く
駅舎より眺むる夕日赤々と遙か彼方に沈みゆきたり
ひろびろと続く青田にラジコンのへり音高く葉撒きをり

<短歌・俳句をお寄せください>

一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り(必着)です。投稿は、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、広報広聴課広報広聴班まで。

ほっとレポート



広報レポーター：中谷 久美好(内野)

民間プールを利用 永治小学校水泳学習

民間のプールを借りて授業を行っている学校があることをご存知ですか。昨年の広報9月1日号でも紹介されましたが、プールの老朽化が進み、大規模改修が必要となる学校の中から、民間プールの利用によって経費削減につながる学校を選び、授業を行っている最中なのです。



棒状の浮遊具(ヌードル)での練習

永治小学校は、全校生徒が31人。利用施設まではバスで移動します。到着後、身支度を整え屋内プールへ。室内は温かく、少し汗ばむくらいで泳ぎたくない!とならない程度の温度だとか。

学校プールは水温22度以上、屋外で水泳授業を行うため「天気に左右されないところが、屋内プールのメリット」だそうです。一方では「移動で前後の授業が削られてしまう」「日程を変えられない」というデメリットがあり、費用の面と合わせ引き続き検証中とのこと。児童たちは、泳力により初級、中級、上級と3つの班に分かれ、個別に指導を受けながら、もぐったりの泳いだり。プールの長い6年生は、学校のプールは「寒い日と温かい日の差が大きい」と指摘。寒くて唇が真っ青にという心配は、ここではなさそうです。



みんなでバタ足の練習

一般のみなさんの利用時

間になると、プール内には徐々に人が増えていきましたが、児童たちの泳ぐペースと分けられていて、双方に支障が出ないよう工夫されていました。先生たちは「学校にないようなもの(器具)を使わせてもらえるので助かる」と話して

いました。確かに、棒状の「ヌードル」を体に回して浮いたり、穴のあいた「パドレー」を利用して泳いだりといった練習は、楽しそうに水慣れも早そうだなと思いました。初めは顔を水につけられなかったという1年生は、「水の中が見えました」と嬉しそう。「目をあけられたの?」と聞くと、「ゴーグルをつけていましたから」。

リサイクル情報広場

掲載情報は6月26日現在
■クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)

◆ゆづりませ情報

- ①犬の洋服②シングルベッド③スキー板・ストック・スキー靴④ガラスケース入りわらべ人形⑤チャイルドゲート⑥防災ずきん・体操服など

◆さがしています情報

- ①補聴器②英(はなぶさ)幼稚園の制服・体操着③天神幼稚園男児制服・体操服④しおん幼稚園体操服(半袖)⑤木刈小学校体操服上下⑥木刈小学校ジャージ上⑦きかり幼稚園体操服長ズボン・半ズボン⑧杵と臼⑨和装着付け練習用ボディ(マネキン)⑩天神幼稚園女子制服・体操服⑪しおん幼稚園女子制服⑫こいのぼり⑬スピードラーニング初級16巻テキスト付(正規品)⑭布佐台幼稚園夏制服(男子)。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバッグを持参しましょう。



施設がいと

双子公園

(印旛沼自転車道・山田休憩所)

広報レポーター：田中 宏(高花)



いにしへの印旛沼に、思いを馳せる。
印旛日本医大駅から、県道65号線を4kmほど南下した山田千拓に「双子公園」はあり



ナウマンゾウが目印の公園です



ます。「ナウマンゾウの親子像」がある公園としてご存知の人も多いと思います。が、駐車場とトイレが完備され「印旛沼自転車道」のサイクリングの拠点にもなっています。公園中央の小高い場所に設置された展望台からは印旛沼と緑の水田地帯を見渡すことができます。印

旛沼自転車道とは、八千代市の阿宗橋を起点として西印旛沼を通り、印旛捷水路を抜け、北印旛沼の栄町酒直水門まで続く、約22kmのサイクリングロードです。さて、このサイクリングロード一番のおすすりめが、双子公園を出てすぐの「印旛捷水路」沿いのコース。両側に迫る山のためか、まるで峡谷を走っているような錯覚を覚えます。ペダルを踏むと、頭上高く山田橋が架かり、次に赤い市井橋が見えてきます。この市井橋から、少し進んだ壁面には「ゾウのプレート」がはめ込まれています。ここが1966年6月に日本で初めて、頭・胸・脚がそろった一頭体としての「ナウマンゾウの化石」が発掘された有名な地点。双子公園のゾウの由来は、まさにこれ



▲市井橋から望む、サイクリングロードと捷水路▶壁面プレートは見落としに注意

だったのです。ナウマンゾウは絶滅したゾウの一種で、約2万年前まで日本各地に生息していました。印旛の地で発見されたきっかけは、戦後すぐの食糧難対策で本格化した「印旛沼開発事業」のこと。この事業により印旛沼は、北印旛沼と西印旛沼に2分され、ふたつの沼を結んでいるの

が「印旛捷水路」です。「捷水路」とは、氾濫しやすい曲がりくねった川を真っ直ぐに改良するもので、掘削工事が比較的容易な谷間が選ばれました。そして、この工事中にナウマンゾウの化石が発見されたわけ。ゾウが出てきた地層の堆積物から見ると、沼地は当時からあったことが推測されます。このゾウの水を飲みに来て沼にはまったのか。あるいは旧石器人に狩られて崖から落ちたのか。遠い古代に思いを馳せるのも楽しいものです。ここで発掘されたナウマンゾウの復元骨格は県立房総のむら風土記の丘資料館(栄町)に展示されています。公園で楽しんだ後に、立ち寄ってみてはいかがでしょう。